



明治学院大学 社会学・社会福祉学会

学内学会会報 第31号

2022年春のキャンパスとこれからの学内学会誌

社会学・社会福祉学会会長/社会学部長 藤川 賢(社会学科)

2022年度の新学期が始まり、白金キャンパスも活気づいています。感染症対策は続き、不安も残るとは言え、少しずついろいろな活動を再開できるようになり、大学らしい日常が戻りつつあることを感じます。昼食時の食堂などでは久しぶりに混雑を見ることもできるようになりました。

その中で改めて感じるの是一緒に学ぶことの楽しさです。文献講読や研究調査は一人でも可能ですし、意見や情報の共有ならオンラインでも変わらないはずですが、やはり、互いに顔の見えるところでの発言や共同作業には効率とは別次元の充実感があります。ゼミなどで久しぶりに顔を合わせる学生同士のやりとりは、まだ春のぎこちなさを伴いながらも、楽しげに響きます。

学内学会の学生部会にも24名の新入生が加わってくれたとのこと。これも学部の中で一緒に活動できることへの期待の表われだと思います。上級生が各種の不自由と人数の少なさを乗り越えて昨年度の活動を盛り上げ、今年度の新入生歓迎行事でも活躍してくれたおかげであり、学生の方にはもちろん、担当の先生方やスタッフの方々にも感謝の念に堪えません。昨年度からの熱意に新しい活力が加わって、さらなる息吹が生まれることを祈っております。

その中で、学生部会を中心に学内学会の活動内容を見直そうという声があがってきています。金子先生が本紙の中で書いてくださっていますように、紙媒体での『Socially』刊行を見送り、別の発信方法を模索するという提案がその中心です。

学生部会は年度ごとの人数変動が大きいこともあって、『Socially』刊行をはじめとするルーティン・ワー

クの負担の重さは、コロナ下になる以前から何度か指摘されてきました。関係者の努力によってそれなりの水準を保ちつつ今日まで続いてきましたが、継続だけでよいのかという疑問は共有されてきたところです。電子メディアの進展が進んだ社会状況もあって、新たな日々を迎えようとする今年度に向け、30号を区切りとする提案にいたったものと受け止めております。

丸山義王さんが『Socially』の29号と30号に、社会学部(とその前身)および学内学会の設立以来の会誌・会報について貴重なエッセイを寄稿くださっています。軽快な文章で、1930年代から今日までの曲折を体験することができます。そこで感じるの、戦争や学園紛争などで中断を余儀なくされながらも、学生・卒業生・教員などの枠を越えて平等な立場での交流の場がくりかえし求められ続けてきたことです。1993年刊行の『Socially』第1号でも、加藤雄司社会学部長は、学内学会が広範なメンバーによる多面的な目的をもった新たな学会であり、『Socially』は20年前までの会誌の「再刊」ではなく新たな「創刊」であることを強調しています(丸山義王(2021)「明治学院大学社会学部機関誌の歩み」『Socially』29号、99頁)。

今回の提案は、ある意味でこの学内学会の設立方針を再確認するためのものだと考えられます。1990年代前半は、ワープロからパソコンへの移行とともに執筆・編集が容易になっていく時期で、雑誌の刊行も盛況でした。自由度の高い学会誌としての『Socially』への期待も大きかったに違いありません。そして30年の間にも『Socially』の内容は変化し、写真やイラストの割合も増えました。その延長として今日では冊子のあり方が問われています。

現代社会においては、情報の氾濫とともに、情報の隔絶とそれに伴う分断が社会的課題となっています。多様な発信方法が出現しつつある今日、メディアの選択や組み合わせを選ぶための検証には、統計的な分析だけでなく、お互いに経験や感覚を理解し合えるような話し合いが必要だと思うのですが、忙しい現代社会ではしばしば個人ごとの判断や成り行きに委ねられていきます。そうした時代だからこそ、社会学部に集う私たちが、身近なところから、研究交流と発信の方法を模索する意味は大きいのではないのでしょうか。そのためにも今回の検討をめぐっては、結論を急ぐのではなく、多様な意見と可能性を大事にしていきたいと考えています。

求められているのは、一つには、年代や立場を越え

て社会学部にかかわるすべての人たちが平等に参加し、交流することのできるメディアであることです。もちろん、記録と継承も重要です。発信する内容が問われることはいうまでもありません。紙媒体の強みも明らかで、これらを兼ね備えた答えが明確になるまでは従来の形態を維持するという選択ももちろん現実的です。

正解が明快ではないからこそ、慎重な検討のためには多くの意見が必要です。学内学会にかかわる人たちが知恵を寄せ合って、在学生・卒業生・教職員の間での交流を広げることが求められています。

ぜひ、ご意見をお寄せくださいますよう、また、その後の議論にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

学内学会誌『Socially』の休刊と今後について

金子 充 (社会学部教授・社会福祉学科)

おかげさまで、2022年3月に『Socially』第30号が刊行されました。30年の長きにわたって刊行を続けてこられたのも、支えてくださった会員の皆様のおかげです。この場を借りてお礼を申し上げます。

『Socially』は学内学会・学部の研究・活動成果を発信する媒体であり、またその編集や刊行自体が学内学会の活動として意味をもってきました。刊行当初はまさに「論文集」としてその役割を果たしていたようですが、時代とともに内容は変化し、近年では論文はわずかとなり、全体構成の大部分を占めているのは講演会録、座談会録、卒業生インタビューとなっています。

こうした『Socially』の構成内容の変化とともに、この企画、編集、事務作業を支えてきた学生部会・卒業生部会の負担が次第に大きくなり、さらにコロナ禍によって両部会の活動が困難な状況にあります。とりわけ編集に直接関わる学生部会の負担が大きく、このままの形で『Socially』を存続することが困難となっています。

さらに近年、大学・学会(学外)においてはインターネット上で公開されるオンライン・コンテンツが充実するようになり、学生・院生もスマートフォンやパソコンからオンラインで情報を得ることを日常とするよ

うになりました。社会学部ホームページやSNSも充実し、紙媒体の『Socially』のみから得られる情報は数少なくなりました。

以上の状況から、『Socially』の中身や刊行の形態を再考し、例えばホームページ、SNS、ZINE (magazine = 小冊子) のような新しいメディアを活用した発信に代えていく可能性を探ること、そしてそれを用いて学内学会の立て直しを図ることが求められていると考えます。

そこで、2022年3月に刊行した『Socially』第30号を区切りにして、第31号を現状のままの冊子体として刊行せずに、「新しい別のスタイル」を模索していきたいと考えております。ただし学生部会の現状を鑑みて、その「新しい別のスタイル」を具体化するにも十分な時間が必要であると思われる。

以上の現状と方向性については、学内学会合同役員会議(2022年2月)・教授会(同3月)でも一定の理解を得られていますが、紙媒体による情報発信を完全になくしてしまうことについては慎重に検討してほしいとの意見をいただいております。小冊子に改めるとしても、中身として何を掲載すべきなのか議論が必要です。

このたび開催される総会、および本会報誌に記載の

アンケートを通して、多くのご意見をいただきながら今後の方向性を確定していきたいと考えています。とくに、長く『Socially』を支えてくださった卒業生部会員様から貴重なご意見をうかがいながら進めたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

【Sociallyの今後についてのアンケート】

会費をご納入いただいている会員の皆様には毎年お送りしている『Socially』ですが、今回お送りします30号をもって区切りとし、時代に即した新たな別の情報発信のスタイルを模索するため、7月の総会を含めて今後議論していくことになりました。卒業生会員の皆様のご意見も反映してまいりますので、以下のアンケート・フォームからご意見を頂戴したく存じます。

アンケートは下記QRコードからご回答いただけます。所要時間は5分程度です。ご回答は6月26日(日)までをお願いいたします。

お手数をおかけしますが、ご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。

ご不明点は事務局までお問い合わせください。

《Sociallyの今後についてのアンケート》

Socially過去号はこちらをご参照ください

《Web公開版Socially27号～30号》



https://soc.meijigakuin.ac.jp/gakunai_gakkai/socially/

2021年度 学内学会活動報告

～2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大による影響を大きく受けた～

2021年4月25日～9月30日 緊急事態宣言(第3回目)

※3月の卒業式と4月の入学式は教室を分けて短時間で開催された。

2022年1月9日～3月21日 まんえん防止等重点措置



★会報30号発行

6月1日(火) 発行部数 2,600部

★第31回総会・特別講演会

6月26日(土)にオンライン(ZOOM)で開催した。

2020年度決算報告、2021年度予算案、施工細則文言追加について、参加者全員の賛成と委任状17通をもって、承認された。総会参加者は29名(教員8名、学生13名、卒業生7名、事務局1名)であった。

総会の後、同じZoom会議室において特別講演会を開催した。講師は本学社会福祉学科卒業生の岸川朋子氏で、講演タイトルは「意外とできちゃう!? 社会を(ちょっと)豊かにする仕組みづくり ～発達障害の方の『働きたい』『働き続けたい』を支える視点から～」であった。NPO法人立ち上げや運営に関する実体験に基づいた充実した講演で、質疑応答も活発に行われた。特別講演会参加者は51名(学生33名、卒業生7名、教職員11名)であった。

明治学院大学社会学部・社会福祉学会 第31回総会・講演会
2021.6.26 Sat
15:00～16:30
意外とできちゃう!? 社会を豊かにする仕組みづくり

現代の社会は、障害を持つ人々にとって働きやすい社会と見えませんが、私たちが自身の社会を向上させていく上で必要なスキルを、本学社会福祉学科卒業生の岸川朋子さんに、ご自身の体験や活動を通して語っていただきます。

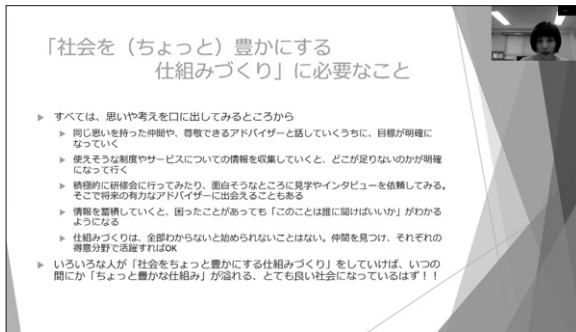
講師：岸川朋子氏
特定非営利活動法人 オアシス ライフ

プロフィール
■明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業生(2007年卒)
■卒業後約10年間一貫して児童福祉施設を特別支援科のリーダーとして働き続け、2019年にNPO法人オアシスライフの立ち上げに関与。
■高校、大学、就職先で様々なボランティア活動や社会福祉活動を通じて、発達障害の方々の「働きたい」「働き続けたい」という思いをサポートする仕組みづくり支援活動に従事。

オンライン(ZOOM)開催 参加無料!

参加ご希望の方はQRコードか、下のリンクからお申し込みください。
ご登録いただいたアドレスに当日のアクセス情報をお送りします。
<https://forms.gle/n4D59Dkx1YU11Z57>

主催 明治学院大学社会学部・社会福祉学会 共催 明治学院大学社会学部・社会福祉学会事務局
E-mail: shokai@soc.meijigakuin.ac.jp 印刷 明治学院大学社会学部・社会福祉学会 学生会部 広報課



★研究発表会

12月11日(土) オンライン (Zoom) で開催した。

4分科会で合計20件の発表が行われた。内訳は、ゼミ発表6件(社会学科4件、社会福祉学科2件)、調査実習Gr発表3件、個人発表11件(社会学科6件、社会福祉学科5件)であった。個人発表の11件のうち8件は大学院生による発表であった。コロナ禍ならではの研究内容の発表も多く、誰にとっても興味深い内容であった。質疑応答では教員からも深い質問が出され、充実した学びの時間となった。4つの会場の司会進行は学生部会メンバーが担当した。

●第一分科会

野沢慎司 調査実習 (5名)

出産・育児は職業キャリアにどのような影響を与えるか ー野沢実習報告1

野沢慎司 調査実習 (5名)

親になるとジェンダーに関わる意識と役割行動はいかに変化するか ー野沢実習報告2

野沢慎司 調査実習 (5名)

コロナ禍は子育て期の共働き家族にどのような影響を及ぼしたのか ー野沢実習報告3

明石留美子ゼミ (4名)

若者×社会問題

田野和希 (19SG)

新型コロナの影響を受けた大学生8人の生活 ーインタビュー調査から

●第二分科会

金子充ゼミ (5名)

ベーシックインカム論を手がかりに所得保障を考える

坂口緑ゼミ (3名)

NPOのホームレス支援について

坂口緑ゼミ (4名)

品川区の廃校活用

鬼頭美江ゼミ (6名)

現代の対人関係の特性を探る ～課外活動集団・友人集団・SNSと対面の友人関係に着目して～

シュウ エイ (21SGM)

孤独・孤立しがちな人たちを支援するためのコミュニティづくり

●第三分科会

石原英樹ゼミ (13名)

3年共同研究 (3 Gr) ①アイドル文化 ②映画とLGBT ③承認欲求とSNS

石川真衣 (19SG)

コロナ禍における学習意欲と文化的再生産理論の関連性について

小泉秋乃 (19SG)

呼称とジェンダー ～ベトナムにおけるパートナー間の人称代名詞の考察を通して～

LONG HAIYING (20SGM)

職場のジェンダー平等推進における男女意識に関する研究

周 楠 (21SGM)

現代中国の農村部における若い既婚女性の子供の性別選好意識の影響要因

●第四分科会

長崎花奈子 (21SWM)

障害のある外国人児童生徒への支援

島崎由宇 (21SWM)

障害者グループホーム制度の変遷と現状の課題について

下田尚子 (20SWM)

高次脳機能障害の方の家族支援の現状に関する研究

宮本博司 (20SWM)

ALS (筋萎縮性側索硬化症) 患者の支援の現状と課題

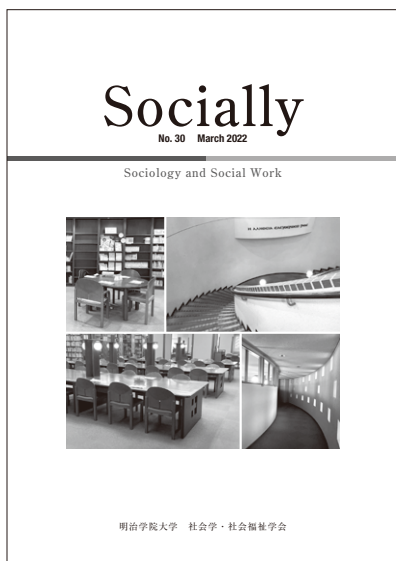
安藤宏美 (21SWM)

精神障害のある当事者によるピアサポートの意義と課題

★Socially30号発行

3月16日 発行部数 1,400部。

特集「コロナ禍における変化～ポストコロナ時代を見据えて～」では学生による2回の座談会の記録と教員からの論文を掲載し、長引くコロナ禍の現況を考察した。また、特別講演会の講演録を収録し、卒業生5人へのインタビューを掲載した。



《Web公開版
Socially30号》



学生部会活動報告

★新入生学科ガイダンスでの広報

新入生学科ガイダンスは、コロナ感染対策のため教室50パーセント定員にて、両学科とも2教室に分かれて行われた。Socially29号を配布するとともに新入生の誘導を行った。広報の時間をいただき、勧誘に努めた。

★団体説明会(春)(担当 池田希帆、東野好花、高橋美衣、山崎怜、佐藤友香、鈴木穂乃花、金子由依奈)

4月15日(木)、4月22日(木)、5月10日(月)の3回、オンラインで開催した。PowerPointを使用して学内学会学生部会の活動内容を説明した。

★座談会(Socially特集企画)(担当 池田希帆、佐藤一貴、山口司沙)

昨年引き続きSociallyの特集企画として学生の座談会をオンラインで行った。8月10日(火)に第1回目として、学生部会メンバー4名で開催した。9月4日(土)には学生部会メンバー5名の他にゲストの学生1名と編集担当教員の澤野教授にもご参加いただいて第2回目を開催した。少人数での開催で終始和やかな雰囲気で開催できた。座談会の記録はSocially30号に収録した。

★社会学科ゼミサロン(担当 高橋美衣、山崎怜、金子由依奈、草間琴美)

昨年同様にコロナ禍にある為、10月9日(土)に4部制でオンライン開催した。15のゼミを4グループに分け、1グループ40分で順番に開催。第1部25人(ゼミ

生6人)、第2部21人(ゼミ生5人)、第3部33人(ゼミ生7人)、第4部35人(ゼミ生8人)の参加があった。3年生のゼミ生だけでなく4年生のゼミ生にもご協力いただき、2年生からの質問と学内学会からの質問に回答してもらい、ゼミの詳細を説明してもらった。2年生はビデオもマイクもオフで、チャット機能で質問する形式にしたため、2年生の反応を確認することはできなかったが、ゼミに対する理解を深めてもらうことができたと思う。開催日が土曜日という事もあり、どのゼミでもバイトが入っている学生が多く、協力者を確保するのに苦労した。

卒業生部会活動報告

★社会福祉学科「基礎演習」科目への協力

社会福祉学科「基礎演習」科目において、「社会福祉領域で働くこと」をテーマに学生たちが社会福祉の学びとその後のキャリアを考える機会として、社会福祉学科卒業生へオンラインでインタビューを行う企画を秋学期に実施。インタビューを学生が行うにあたり、担当教員の米澤且准教授からの依頼を受け、卒業生部会から社会福祉学科卒業生に協力要請を行い、31名に協力していただいた。

★社会福祉学科卒業生と学生の交流会



11月20日(土)社会福祉学科卒業生と在学生のオンライン座談会を開催した。

卒業生は、介護サービス事業所、療育センター、特別支援学校、児童相談所、医療ソーシャルワーカーなど、本学社会福祉学科を卒業後、ソーシャルワーカーとして様々な現場で活躍する卒業生5名が参加し、在学生は社会福祉学科の学生3名が参加した。前半は、卒業生から学生時代の取り組みや、福祉職に就いた動機、現在の仕事内容などを在学生に伝え、後半は、在学生と卒業生の対話の時間として、在学生からの具体

的な相談に卒業生が答えた。

本企画を通して、卒業生が学生たちにとって身近なロールモデルとなり、今後の学生生活や進路選択の一助となることを期待する。

学内学会 新体制

会長	藤川 賢 (社会学部長・社会学科教授)
副会長(主任)	松波 康男(社会学科准教授)
副会長	茨木 尚子 (研究所所長・社会福祉学科教授)
編集担当	金子 充(社会福祉学科教授)
企画担当	佐藤 正晴(社会学科教授)
会計担当	三輪 清子(社会福祉学科准教授)
卒業生部会委員長	堀込 伸一(1992年卒業)
学生部会委員長	金子由依奈(社会学科3年)

2022年度 学内学会活動予定

4月2日(土) 【学生部会】新入生学科ガイダンスで広報(白金校舎)



- 4月5日(火) 【学生部会】履修相談会(Twitterスペース)
- 4月17日(日) 【学生部会】団体説明会(LINE)
- 6月1日(水) 会報31号発行 2,600部
- 6月3日(金) 第1回合同役員会議(Zoom)
- 7月2日(土) 第32回総会(Zoom)
- 10月中旬 【学生部会】社会学科ゼミサロン
- 10月下旬 【学生部会】講演会
- 11月中旬 【卒業生部会】社会福祉学科卒業生と在校生の交流会
- 12月上旬 【学生部会】上映会
- 12月17日(土) 研究発表会(開催方法未定)
- 2月中旬 第2回合同役員会議
- 日程未定 【卒業生部会】講演会

第32回 総会のお知らせ

今年度もオンラインで総会を開催いたします。例年総会にあわせて行っていた講演会は、感染予防および諸事情により行わないことになりました。

日時：7月2日(土)

14:00～14:45 学内学会 第32回 総会

会場：Zoom会議室

連絡先：〒108-8636 港区白金台1-2-37
明治学院大学社会学部附属研究所内
明治学院大学社会学・社会福祉学会
E-mail shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp
会費振込先：郵便振込 00170-5-96903
明治学院大学社会学・社会福祉学会

※住所変更の際はハガキ又はメールでご連絡下さい。